

(平成20年度 和歌山県看護協会・保健師職能委員会 災害保健活動マニュアルより引用)

大規模災害時医薬品備蓄品目

品 物	薬 品 名	必 要 数	確 認 日	保 管 場 所
1、解熱鎮痛消炎剤 総合感冒剤				
2、抗生物質関係				
3、全身麻酔剤 局所麻酔剤 睡眠鎮静抗不安剤 止血剤				
4、殺菌消毒剤 化膿性疾患用剤 鎮痛、消炎、収斂、消炎剤 消化性潰瘍剤				
5、強心剤 利尿剤 血管拡張剤 副腎ホルモン剤				
6、血液代用剤 糖類剤 溶解剤				
7、血液製剤類				
8、注射器 注射針 輸液セット カット綿 ガーゼ 伸縮包帯				

5. 物品管理用紙

(平成16年度 厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業 自然災害発生時における医療支援活動マニュアルより引用)

搬入物品一覧

区分	災害発生から3日～1週間以内の出勤					災害発生から1週間～1ヶ月の出勤					災害発生から1ヶ月以上の出勤				
	品名	単位	数量	重要度		品名	単位	数量	チェック	品名	単位	数量	チェック		
				A	B									A	B
お金	現金	円	適当	○		現金は、左記に同じ				現金は、左記に同じ					
	寝袋	袋	人数分	○											
生活用品	ユニフォーム	セット	人数分	○		生活用品は、左記に同じ				生活用品は、左記に同じ					
	毛布	枚	人数×2枚	○											
	懐中電灯	ヶ	人数分	○											
	乾電池(各種)	個	適量	○											
	ポリタンク18L	ヶ	2	○		※以下は、電気が使用可能な場合は持参		※電気製品は可能と考え準備する							
	ラジオ	台	1	○		電気ポット	個	1							
	地図	冊	1	○		電子レンジ	台	1							
	使い捨てカイロ	個	4日分程度	○		携帯電話充電器	台	1							
	携帯電話(代表)	台	1	○											
	携帯電話使用充電器	個	数個	△											
	ペンチコート	枚	人数分	△											
	防寒靴(長靴)	個	人数分	△											
	枕	個	人数分	△											
	スリッパ	足	人数分	△											
	拡声器	ヶ	1	△											
養生シート	枚	2	△												
CB無線(トランシーバー)	台	人数分	△												
傘	本	人数分	△												
使い捨てカメラ	ヶ	適量	△												
石鹸	ヶ	適量	△												
タオル	枚	20	△												
ティッシュ	箱	10	△												
水なしシャンプー	本	2	△												
洗濯石鹸	箱	1	△												
事務用品	間診票	枚	100	○		事務用品は、左記に同じ				事務用品は、左記に同じ					
	カルテ2号用紙	冊	2	○		※以下は、電気が使用可能な場合は考慮									
	処方箋	枚	100	○		パソコン	台	1							
	大学ノート	冊	5	○		プリンター	台	1							
	セロハンテープ	ヶ	1	△		コピー機	台	1							
	ハサミ	ヶ	3	△		プリンターインク	セット	1							
	カッター	ヶ	2	△		FAX	台	1							
	千枚通し	本	1	△		USBストレージ	ヶ	1							
	A4用紙	罫	2	△		テプラ本体	台	1							
	フォルダー(背)	ヶ	100	△		テプラテープ	セット	1							
	筆記用具	ヶ	適量	△		コピー用紙A4	箱	1							
	複写紙	枚	5	△		※以下は書類整理のため									
	カラーマジック	セット	1	△		穴開けパンチ	ヶ	1							
	パソコン(無線LAN)	台	1	△		ホッチキス	ヶ	1							
						ホッチキス針	箱	1							
炊事器具類	カセットコンロ	ヶ	1	○											
	カセットボンベ	本	適量	○		炊事具類は、左記に同じ				炊事具類は、左記に同じ					
	鍋	ヶ	1	○											
	ヤカン	ヶ	1	△		※水道の使用が可能であれば考慮				※水道の使用は可能と考え準備する					
	割り箸	膳	100	△											
	使い捨てスプーン	膳	50	△											
	紙コップ	膳	100	△											
	紙皿	膳	100	△											
	紙どんぶり	膳	100	△											
	軍手(作業用)	足	5	△											
食品	レトルト食品	個	適量	○											
	カロリーメイト等	個	適量	○											
	パックご飯	個	適量	○		食品は、左記に同じ				食品は、左記に同じ					
	缶詰	個	適量	○											
	ペットボトル水	本	適量	○		※現地調達が可能であれば考慮				※現地調達も可能と考え準備する					
	〃 お茶	本	適量	△											
	野菜ジュース等	本	適量	△											
	日本茶ティーパック	パック	適量	△											
	インスタントコーヒー	瓶	適量	△											
	パン	個	適量	△											
カップ麺	個	適量	△												
チョコレート等	個	適量	△												
果物(バナナ等)	個	適量	△												
漬物パック	個	適量	△												
その他	医療用バッテリーパソコン	台	1	△		医療廃棄物容器	箱	適当		撤退用ダンボール箱	箱	適当			
	手回し充電ラジオ	個	1	△											
	テント	張	1	△											
	発電機	機	1	△											

医療機材リスト

品名	数	単位	品名	数	単位
シリンジ 50ml		箱	長撮子		本
シリンジ 20ml		箱	有鉤撮子		本
シリンジ 10ml		箱	無鉤撮子		本
シリンジ 5ml		箱	アドソン(有鉤)		本
シリンジ 2.5ml		箱	アドソン(無鉤)		本
シリンジ 1ml		箱	剪刀 両鈍反		本
インスリン用シリンジ(100単位/ml用)		箱	剪刀 眼科用両尖反		本
カテーテルチップ型シリンジ 50ml		箱	剪刀 抜糸用		本
注射針 18G		箱	ペアン(直)		本
注射針 21G		箱	ペアン(曲)		本
注射針 22G		箱	モスキート(直)		本
注射針 23G		箱	モスキート(曲)		本
カテラン針 23G		箱	ゾンデ		本
カテラン針 22G		箱	持針器		本
カテラン針 21G		箱	ヘガール		本
インサイト留置針 14G 長針		本	バイクリル 3.0		個
インサイト留置針 16G 長針		本	バイクリル 4.0		個
インサイト留置針 18G		本	バイクリル 5.0		個
インサイト留置針 20G		本	針付きナイロン糸 2.0		箱
インサイト留置針 22G		本	針付きナイロン糸 3.0		箱
インサイト留置針 24G		本	針付きナイロン糸 4.0		箱
異状針 21G		箱	針付きナイロン糸 5.0		箱
異状針 23G		箱	ナイロン糸 1.0		パック
針捨てボックス		個	ナイロン糸 2.0		パック
万能つま(ディスプレイ)		箱	ナイロン糸 3.0		パック
ビニール袋 90l		箱	ナイロン糸 4.0		パック
ビニール袋 45l		箱	ナイロン糸 5.0		パック
ビニール袋 10l		箱	絹糸 1.0		パック
ビニール袋 小サイズ		箱	絹糸 2.0		パック
トランスポアサージカルテープ 25mm幅		箱	絹糸 3.0		パック
トランスポアサージカルテープ 12.5mm幅		箱	絹糸 4.0		パック
カブレステープ		巻	絹糸 5.0		パック
エラストポア 50m幅		箱	縫合針セットB(角針)		個
エラストポア 25m幅		箱	ステリストリップ 6mm×100mm		箱
デルマポア 1号		箱	ネラトンカテーテル3孔(ディスプレイ) 6号		本
デルマポア 2号		箱	ネラトンカテーテル3孔(ディスプレイ) 23号		本
デルマポア 3号		箱	膀胱留置カテーテルセット 14Fr		個
デルマポア 4号		箱	膀胱留置カテーテルセット 16Fr		個
デルマポア 5号		箱	膀胱留置カテーテル 10Fr		本
カルトスタット		箱	膀胱留置カテーテル 14Fr		本
オブサイトフレックス		巻	膀胱留置カテーテル 16Fr		本
カットパン(長方形)		箱	手術用滅菌手袋 6.0		個
カットパン(正方形)		箱	手術用滅菌手袋 6.5		個
プレスネット 5号		個	手術用滅菌手袋 7.0		個
プレスネット 4号		個	手術用滅菌手袋 7.5		個
プレスネット 3号		個	手術用滅菌手袋 8.0		個
滅菌ガーゼ 8つ折り		パック	プラスチック手袋 M		箱
滅菌ガーゼ 4つ折り		パック	プラスチック手袋 S		箱
滅菌ガーゼ 4つ折り		パック	膿盆(ディスプレイ)		個
コメガーゼ(中)		パック	ステンレストレイ(注射用)		個
婦人科用綿棒		箱	滅菌穴あきシート 3.0cm		個
滅菌綿棒(大)		本	滅菌穴あきシート 5.0cm		個
滅菌綿棒(小)		本	滅菌穴あきシート 8.0cm		個
ソフラチュール		枚	滅菌穴なしシート		個
油紙		巻	滅菌歯ブラシ		個
ノベクタンスプレー		本	シールド付きサージカルマスク		箱
ディスプレイ舌圧子		箱	安全ゴーグル		個
綿球(中)		パック	紙おむつ フラットタイプ		袋
ディスプレイ柄つきメス No. 10		本	ディスプレイガード かみそり		箱
ディスプレイ柄つきメス No. 11		本	酒精綿 100枚		箱
消毒セット(ディスプレイ)		パック	ショウドックスーパー		個

医療機材リスト

品名	数	単位
延長チューブ(ロック式)		個
延長チューブ(スリップ式)		個
延長チューブ(小児用)		個
三方活栓 R-型 シングル		個
輸液セット(成人用)		箱
輸液セット(小児用)		箱
駆血帯		巻
ペンライト		個
体温計		個
酸素飽和度モニター		個
電子血圧計		個
血圧計(成人用マンシェット)		個
血圧計(小児用マンシェット)		個
血圧計(大腿用マンシェット)		個
打鍵器		個
聴診器		個
メジャー		個
体重計		個
サルバタオル		パック
タオル		枚
バスタオル		枚
ベースン(沐浴/清拭用)		個
ベースン(創洗浄等廃液用)		個
スプリントシーネ(下肢用)		個
スプリントシーネ(下腿用)		個
スプリントシーネ(上肢用)		個
アルフェンスシーネ No. 2		箱
アルフェンスシーネ No. 3		箱
アルフェンスシーネ No. 4		箱
三角巾		枚
ソフトタイ		
ソフトタイ		
弾性包帯		個
弾性包帯		個
洗浄用蒸留水ボトル		個
尿カップ		個
尿検査テストテープ		缶
潜血検査テストテープ		缶
血糖測定器		個
ダイアセンサー		箱
AED		個
ポータブル心電計		個
湯たんぽ		個
水枕		個
器材煮沸消毒セット		セット
足踏み式吸引機		個
吸引カテーテル 50cm 14Fr		箱
吸引カテーテル 30cm 14Fr		箱
吸引カテーテル 30cm 10Fr		箱

救護班員用健康管理セット

品名	数	品名	数	品名	数
総合ビタミン剤		消毒セット		血圧計	
総合感冒剤		イソジン		聴診器	
解熱鎮痛剤		ガーゼ		体温計	
健胃・消化剤		ソフトタイ		リップクリーム	
止痢剤		冷湿布		点眼薬	
整腸剤		カットバン（長方形）			
イソジンガーグル		ゲンタシン軟膏			

* 班員の人数により、必要準備数を適宜設定する。

救急蘇生セット

品名	サイズ	数
喉頭鏡		1
喉頭鏡ブレード	5、4、3	各1
バイドブロック	大、中	各2
マギール鉗子	長	1
スタイレット		2
経鼻エアウェア	7.0 8.0	各1
アンビューバッグ		1
簡易吸引器		1
挿管チューブ	4.0 5.0 6.0 6.5 7.0 7.5 8.0 8.5	7.0~8.0 は各2 ほかは 各1本
吸引チューブ	6、10、14	各3本
注射器	2.5 5 10 20	各3
注射針	18G 23G	各5
翼状針	21G 23G	各2
輸液セット	成人用	3
延長チューブ		3
三方活栓		3
布製テープ		1巻
駆血帯		1本
はさみ		1
プラスチック手袋	M、S	10枚
酒精綿		1箱
ヴィーンエフ	500ml	2
エピネフリン	1ml	5
生理食塩水	20ml	5
硫酸アトロピン	0.5mg	4
キシロカインゼリー		1

(平成20年度 和歌山県看護協会・保健師職能委員会 災害保健活動マニュアルより引用)

診療器具、救急セット

蘇生・気管セット

	品名	規格	数量	保管場所	
蘇生用具	1、手動式蘇生器	シリコンレサンステーター 専用リザーバー付	1		
	2、マスク	大・中・小 各1	3		
	3、エアウェイ	キャスガイド、ポリ製、0-7号 各1	7		
	4、フランジアアダプター	大・中・小 各1	3		
	5、鼻鏡	ハルトマン中	1		
	6、吸引機		1		
気管挿管用具・専用薬剤	1、喉頭鏡	マンキントッシュブレード大・中・小 柄付、電池付、ケース入り	1		
	2、気管内チューブ	ポーテックスカフ付 No6・7・8各2	6		
	3、スタイレット	ポーテックスカフ無 No2.5・3.5・4.5各2	6		
	4、開口器	大・中 各1	2		
	5、舌鉗子	エスマル L	1		
	6、舌圧子	コラン	1		
	7、バイトブロック	バイトステック	3		
	8、口腔吸引チューブ	大・中 各1	2		
	9、気管吸引チューブ	シリコンネラトン No4・6・8 各1	3		
	10、サクションコネクター	シリコン、コントロール弁付Fr 10・12各2	4		
	11、気管切開チューブ	フリーサイズ	6		
	14、止血鉗子	ポーテックス、カフ付、6・8mm 各2	4		
	15、酸素吸入カテーテル	ポーテックス、カフ無、4mm	2		
	16、ラポナル	ペアン 14cm 無鉤	2		
	17、サクシン	鼻用、ハドソン 500mg、溶解用蒸留水付 400mg、溶解用蒸留水付	5 5A 1V		
	気管挿管用具外	1、シリコン胃管	120cm、Fr 12・16 各2	4	
		2、直腸カテーテル	10・12号 各1	2	
3、尿カテーテル		バルーン付 Fr 14・16 各5 バルーン付 Fr 8	10 2		
4、救急剪刀		19cm	1		
5、リドカインスプレー		キシロカイン 80g	1		
6、リドカインゼリー		キシロカイン 30g	1		

診療・創傷セット

	品名	規格	数量	保管場所
診療用具	1、聴診器 2、打診器 3、体温計 4、血圧計 5、舌圧子 6、捲綿子 7、メジャー 8、携帯型心電図計（ケース）			
眼科・耳鼻科専用薬品	1、洗眼瓶 2、洗眼受水器 3、直像鏡 4、開眼器 5、閉瞼器 6、尋常ピンセット 7、固定ピンセット 8、異物針 9、尖刃刀 10、眼帯 11、点眼 12、点眼棒 13、眼科用薬 14、喉頭捲綿子 15、額帯付反射鏡 16、喉頭鏡 17、耳鼻用ピンセット 18、耳用消息子 19、舌圧子 20、鼻鏡 21、鼻用捲綿子 22、局所麻酔薬 23、血管収縮止血薬 24、含嗽剤			

避難所における生活用品の確保

品 物	必 要 数	確 認 日	保 管 場 所
<p>【食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵庫 ・ 飲料水 ・ ポット ・ 紙コップ ・ ディスポ食器 ・ 割り箸 ・ 缶切り ・ ビニール袋（A 4 版程度） ・ サランラップ ・ ミルク ・ 離乳食 ・ 保存食 ・ 手指消毒用液 ・ 食器用洗剤 <p>【宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毛布 ・ 保温布 ・ 石油ストーブ ・ 灯油 ・ 歯ブラシ ・ バスタオル ・ タオル ・ シャンプー ・ ボディーソープ ・ 洗濯用洗剤 ・ 爪切り ・ ティッシュペーパー ・ ウェットティッシュ ・ ゴミ袋 ・ ゴミ箱 			

品 物	必 要 数	確 認 日	保 管 場 所
<p>【トイレ】</p> <p>屋外用；・スコップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重機と運転手の確保 ・渡し板 ・ビニールシート ・ポール（支柱） ・トイレ瞬間消臭剤 ・手指消毒用液（ウェルパス等） ・懐中電灯 ・乾電池 ・ロープ ・クレゾール液 ・案内板（男性用、女性用 使用中、空きなど） <p>屋内用；・プライバシー保護用大きな布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙オムツ（子供用、大人用） ・オムツ交換用シート ・トイレ瞬間消臭剤 ・トイレットペーパー ・新聞紙 ・買い物袋（レジ袋） ・生理用品（ナプキン、ショーツ等） ・手指消毒剤 ・スクリーン <p><u>福祉避難所：上記に加えて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムツ（子供用、大人用） ・ポータブルトイレ ・トイレ瞬間消臭剤 ・プライバシー保護用大きな布 ・シーツ ・寝具 ・冷却アイスノン ・折りたたみ式トイレ ・マスク 			

救急薬品等

品 物	必 要 数	確 認 日	保 管 場 所
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包帯 ・ 滅菌ガーゼ ・ 大きなガーゼ ・ 三角巾 ・ 手指消毒剤 ・ うがい薬 ・ 風邪薬 ・ 鎮痛解熱剤 ・ かゆみ止め ・ 虫さされ薬 ・ 胃腸薬 ・ シップ薬 ・ 目薬 ・ 眼帯 ・ 消毒用アルコール ・ カット綿 ・ タオル ・ バスタオル ・ ティッシュ ・ ウェットティッシュ 			

6. 生活機能評価票（地域包括支援センター使用）

生活機能評価 基本チェックシート

質 問 項 目		0点	1点	特定高齢者候補選定		
1	バスや電車で1人で外出していますか。	はい	いいえ	≥3/5	≥ 10/20	手段的日常生活関連動作能
2	日用品の買い物をしていますか。	はい	いいえ			
3	預貯金の出し入れをしていますか。	はい	いいえ			
4	友人の家を訪ねていますか。	はい	いいえ			
5	家族や友人の相談に乗っていますか。	はい	いいえ			
6	階段を手すりや壁を伝わらずに昇っていますか。	はい	いいえ	≥3/5		運動器機能
7	いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	はい	いいえ			
8	15分位続けて歩いていますか。	はい	いいえ			
9	この1年間に転んだことがありますか。	いいえ	はい			
10	転倒に対する不安は大きいですか。	いいえ	はい	≥2/2		低栄養状態
11	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	いいえ	はい			
12	身長 cm 体重 kg (BMI)が18.5未満ですか	いいえ	はい	≥2/3		口腔機能
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	いいえ	はい			
14	お茶や汁物等でむせることがありますか。	いいえ	はい			
15	口の渇きが気になりますか。	いいえ	はい	≥2/2		閉じこもり
16	週に1回以上は外出していますか。	はい	いいえ			
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	いいえ	はい	≥1/3		認知症
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	いいえ	はい			
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	はい	いいえ			
20	今日が何月何日かわからない時がありますか。	いいえ	はい	≥2/5		うつ
21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない。	いいえ	はい			
22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。	いいえ	はい			
23	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる。	いいえ	はい			
24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない。	いいえ	はい			
25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする。	いいえ	はい			

上記7分野のいずれかが特定高齢者選定基準を上回った場合は、本格的総合機能評価を行う。

7. 長谷川式簡易知能スケール

改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)

(加藤仲司、他：老年精神医学雑誌 2：1339、1991)

	質問内容	配点
1	お歳はおいくつですか？ (2歳までの誤差は正解)	0 1
2	今日は何年何月何日ですか？ 何曜日ですか？ (年月日、曜日が正解でそれぞれ一点ずつ)	年 0 1 月 0 1 日 0 1 曜日 0 1
3	私たちが今いるところはどこですか？ (自発的に出れば2点、5秒おいて家ですか？病院ですか？施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)	0 1 2
4	これから言う3つの言葉を言ってみてください。後でまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか一つで採用した系列に○印をつけておく) 1 a 桜 b 猫 c 電車 2 a 梅 b 犬 c 自動車	0 1 0 1 0 1
5	100から7を順番にひいてください。 (100-7は？それからまた7をひくと？と質問する。最初の答えが不正解の場合打ち切る)	(93) 0 1 (86) 0 1
6	わたしがこれから言う数字を逆に言ってください。 (6-0-2、3-5-2-9を逆に言ってもらう。三桁逆唱に失敗したら打ち切る)	(206) 0 1 (9253) 0 1
7	先ほど覚えてもらった言葉を言ってみてください。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (自発的に回答があれば各2点、もし回答がない場合、以下のヒントを与え正解であれば1点 a 植物 b 動物 c 乗り物)	A 0 1 2 b 0 1 2 c 0 1 2
8	これから5つの品物を見せます。それを隠しますので何があったか言ってください。 (時計、鍵、ペン、タバコ、硬貨など必ず相互に無関係なもの)	0 1 2 3 4 5
9	知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください。(答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中でつまり、約10秒待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0-5=0点、6=1点、7=2点、8=3点、9=4点、10=5点	0 1 2 3 4 5

満点 30

カットオフポイント：20/21 (20点以下は痴呆疑いあり)

8. Barthel index

バーセルインデックス (Barthel Index ; 機能的評価)

1 食事	10 : 自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 5 : 部分介助 (たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 0 : 全介助
2 車椅子からベッドへの移動	15 : 自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む (非行自立も含む) 10 : 軽度の部分介助または監視を要する 5 : 座ることは可能であるがほぼ全介助 0 : 全介助または不可能
3 整容	5 : 自立 (洗面、整髪、歯 磨き、ひげ剃り) 0 : 部分介助または不可能
4 トイレ動作	10 : 自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを 使用している場合はその洗浄も含む 5 : 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 0 : 全介助または不可能
5 入浴	5 : 自立 0 : 部分介助または不可能
6 歩行	15 : 45M以上の歩行、補装具 (車椅子、歩行器は除く) の使用 の有無は問わない 10 : 45M以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 5 : 歩行不能の場合、車椅子にて 45M以上の操作可能 0 : 上記以外
7 階段昇降	10 : 自立、手すりなどの使用の有無は問わない 5 : 介助または監視を要する 0 : 不能
8 着替え	10 : 自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 5 : 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 0 : 上記以外
9 排便コントロール	10 : 失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 5 : ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 0 : 上記以外
10 排尿コントロール	10 : 失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 5 : ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 0 : 上記以外

注) 代表的な ADL 評価法である。100 点満点だからといって独居可能というわけではない

(Mahoney, F. L. & Barthel, D. W.: Functional evaluation:

The Barthel Index. Maryland, State. Md. . J. 14(2) : 61-65, 1965 より)

9. Lawton instrumental ADL

手段的日常生活活動 (IADL) 尺度

項 目	採点	男性	女性
A 電話を使用する能力			
1. 自分から電話をかける (電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど)	1	1	
2. 2, 3 のよく知っている番号をかける	1	1	
3. 電話に出るが自分からかけることはない	1	1	
4. 全く電話を使用しない	0	0	
B 買い物			
1. 全ての買い物は自分で行う	1	1	
2. 少額の買い物は自分で行える	0	0	
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要	0	0	
4. 全く買い物はできない	0	0	
C 食事の準備			
1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する			1
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する			0
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない			0
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある			0
D 家事			
1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する (例: 重労働など)			1
2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる			1
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない			1
4. 全ての家事に手助けを必要とする			1
5. 全ての家事にかかわらない			0
E 洗濯			
1. 自分の洗濯は完全に行う			1
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする			1
3. 全て他人にしてもらわなければならない			0
F 移送の形式			
1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する	1	1	
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない	1	1	
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する	1	1	
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する	0	0	
5. まったく旅行しない	0	0	
G 自分の服薬管理			
1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる	1	1	
2. あらかじめ薬が分けて準備されていていれば飲むことができる	0	0	
3. 自分の薬を管理できない	0	0	
H 財産取り扱い能力			
1. 経済的問題を自分で管理して (予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く) 一連の収入を得て、維持する	1	1	
2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする	1	1	
3. 金銭の取り扱いができない	0	0	

採点法は各項目ごとに該当する右端の数値を合計する (男性 0~5、女性 0~8 点)

(Lawton, M. P & Brody, E. M. Assessment of older people : Self - Maintaining and instrumental activities of daily living . Gerontologist . 9:179-168, 1969 より)

10. Geriatric Depression Scale

	項 目	1	0	1か0を記入
1	毎日の生活に満足していますか	いいえ	はい	
2	毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか	はい	いいえ	
3	生活が空虚だと思いますか	はい	いいえ	
4	毎日が退屈だと思うことが多いですか	はい	いいえ	
5	大抵は機嫌良く過ごすことが多いですか	いいえ	はい	
6	将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか	はい	いいえ	
7	多くの場合は自分が幸福だと思いますか	いいえ	はい	
8	自分が無力だなあと思うことが多いですか	はい	いいえ	
9	外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか	はい	いいえ	
10	なによりもまず、物忘れが気になりますか	はい	いいえ	
11	いま生きていることが素晴らしいと思いますか	いいえ	はい	
12	生きていても仕方がないと思う気持ちになることがありますか	はい	いいえ	
13	自分が活気にあふれていると思いますか	いいえ	はい	
14	希望がないと思うことがありますか	はい	いいえ	
15	周りの人があなたより幸せそうに見えますか	はい	いいえ	

1, 5, 7, 11, 13 には「はい」に 0 点、「いいえ」に 1 点を、2, 3, 4, 6, 8, 9, 10, 12, 14, 15 にはその逆を配点し合計する。5 点以上がうつ傾向、10 点以上がうつ状態とされている。

【XI 過去の災害における高齢者医療出動の内容

(65歳以上の高齢者を中心に)】

1. 阪神淡路大震災：平成7年(1995年)

【発生年月日と場所】

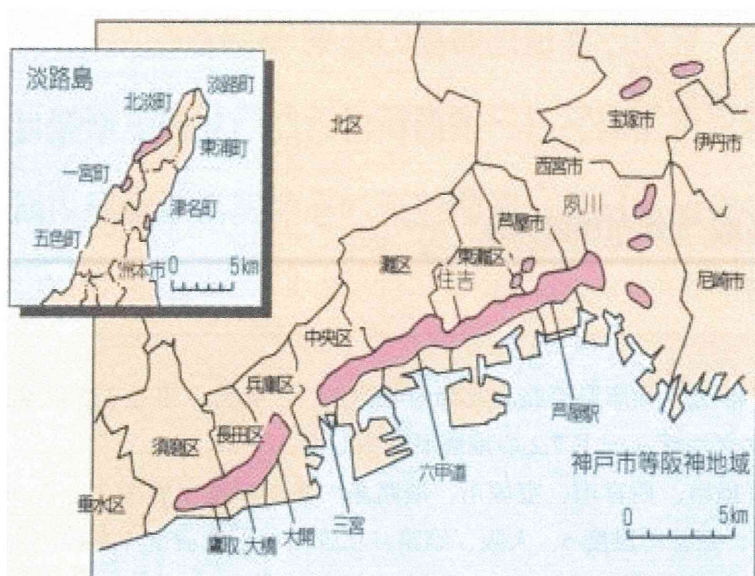
平成7年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北部の北緯34度36分、東経135度02分、深さ16kmを震源とするマグニチュード7.2の地震が発生した。

この地震により、神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、淡路島の多くの地で震度7から6が観測されたほか、豊岡、彦根、京都で震度5、大阪、姫路、和歌山などで震度4を観測するなど、東北から九州にかけて広い範囲で有感となった(図1)¹⁾(図2)²⁾。

図1. 阪神淡路大震災の震度分布 (文献1より引用)



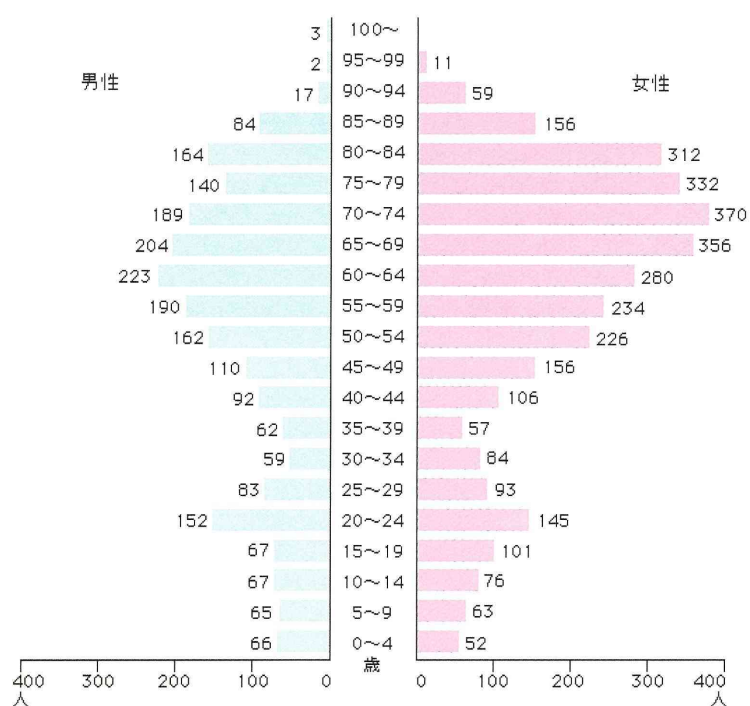
図 2. 阪神淡路地域における震度 7 の分布 (文献 2 より引用)



【人的被害】

この災害による人的被害は、死者 6,434 名、行方不明 3 名、負傷者 43,792 名という戦後最悪の極めて深刻な被害をもたらした。この中で後述するように、高齢者や女性の死亡率が高かった(図 3)³⁾。

図 3. 性、年齢別(5 歳階級)別死亡数 (文献 3 より引用)



【施設被害】

施設関係の被害状況は、住家の全壊が約 105,000 棟、半壊が 144,000 棟にものぼり、このため多くの避難者数を収容する避難所やその後の仮設住宅の開設が必要となった。

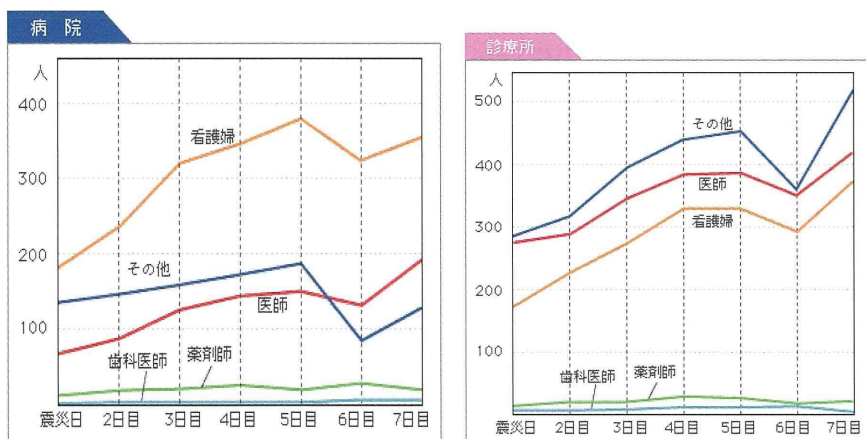
ライフライン関係では、水道で約 123 万戸の断水、約 260 万戸の停電、約 86 万戸の都市ガスの供給停止が最大で生じ、被災者の生活環境の悪化を増幅し、衛生環境の劣悪化が継続した³⁾。

【避難所】

避難所の 7 割が当日に開設された。震災後数日にわたって避難者数は増加し続けた。これは余震不安やライフラインの途絶などによる避難者の増加のほか、当初は把握されなかった避難所が追加指定されたことによると考えられている。兵庫県における最大避難者数は 1 月 23 日の 316,000 人、避難所数 1,152 ヶ所。大阪府においては 1 月 18 日のピーク時には約 3,700 人が 82 ヶ所の避難所で生活していた。被災者の避難先は震災当日は避難所が多く、その後血縁者宅など様々に変遷していく。

震災直後には、避難者の中に負傷者も多く、その看護を避難所になった学校の教職員や避難者の中の医療関係者が行ったり、保健所からの医師の派遣を受けて応急手当が行われた避難所もあった(図 4)。また震災直後の避難所は、高齢者や要介護者に対する対応が十分でなく、厳しい環境に置かれていた。特に、避難所内での安全なスペースを確保することの困難さ、冬季における暖房の無さ、食事が一般成人向きであること、夜間頻尿への配慮の不足、などが上げられた。このような人々を擁護するため、特別な部屋を設けるなどの対応が取れるようになったのは、時間が経過し避難所に落ち着きが見られるようになってからであった³⁾⁴⁾。

図 4. 避難所への医療従事者派遣数 (文献 4 より引用)



【仮設住宅】

震災による被災者は緊急の避難所生活から仮設住宅へと移行してゆく。仮設住宅は被災地域内の公園やグラウンドに優先的に造設されて行ったが、充足には程遠く、被災地域周辺の土地に散在していた⁵⁻⁷⁾。

仮設住宅は平成7年1月20日から順次着工され、同年8月上旬までに神戸市内で29,178戸、市外3,168戸の計32,346戸が建設された。平成7年2月15日から入居が始まり、震災1年後の平成8年1月の神戸市内の仮設住宅の設置箇所は669箇所、戸数は48,300戸となっている。その後、仮設住宅が解消される平成11年12月までの4年10ヶ月にわたり、被災者が恒久住宅へ移転するまでの生活再建を支えた。

平成7年12月の仮設住宅入居者実態調査によると、30,526世帯のうち65歳以上の高齢者は31.2%を占め、特に単身高齢者世帯は20.6%と極めて高い割合であった。避難所での過酷な状況を勘案し、高齢者や障害者に対してはできるだけ元の居住区の近くで生活できるように、ケア付き住宅をはじめとする高齢者のためのバリアフリーや見守り要員の設置、コミュニティの形成支援、恒久住宅への移転支援などの対策は仮設住宅が解消される時期まで継続された。見守り要員として、民生委員児童委員や地域住民やケースワーカー、保健婦や生活支援アドバイザーなどの行政の要員、さらにはボランティアによる様々な支援活動が行われた。

【高齢者医療における特徴】

本大震災が発生した平成7年1月17日から同年6月の間に震災による死亡が直接の死因(原死因)となった5,488件の解析結果を中心に述べる⁷⁾。

死亡の性・年齢階級別の構成を図3に示した。高齢者、特に女性高齢者に死亡の多いのが明らかである。男女とも20~24歳に比較的死者が多かったのは、被災地に大学が集中していたことが一因と考えられる。

死因では各年齢層とも窒息・圧死が4,224人(77.0%)と圧倒的に多かった。高齢者では焼死・熱傷による死亡が他の年齢層よりも高頻度であった(図5)。

また死亡場所としては、図6のように、自宅4,330人(78.9%)、病院551人(10.0%)、診療所21人(0.4%)、その他586人(10.7%)であり、地震の発生が未明であり大部分が在宅であったため、地震直後の家屋の倒壊による窒息・圧死が死亡の多くを占める原因になったと考えられる。このデータは震災による被害を直接の死因とした死亡のみであるが、被害の中心である家屋の倒壊が特に高齢者や女性の命を奪ったことがうかがえる。この震災の貴重な教訓を生かして、たとえば高齢世帯の住環境の改善などに反映すべきであろう。

震災直後は避難指示などの情報伝達が音声や文字表示などの単一方法で提供されたため高齢者や障害者などはどのように行動したらよいかが直ちに理解しにくいこともあった。道路や交通機関の破綻は高齢者をはじめとする災害弱者の車椅子、補聴器、眼鏡、入れ歯など補助用具の破損や紛失と、その買い替えの困難さなどを生じ、生活の質を一層悪化さ